

秋本番の10月です。天は高く、さわやかな季節です。

とはいえ、月末の御嶽山の噴火など多くの犠牲者がでる出来事もおこっています。世界をみてもイスラム国への空爆など不透明感ただよう日々です。しかし、大学は、早いところでは9月の半ばから後期の授業開始。高校や中学でも多くの学校では行事が終わり、学びの秋になりました。この秋のさわやかさのなかの日々の勉学を通して少しでも不透明感を払拭してゆきたいものです。

今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

---

【1】最新活動報告

9月の活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

これからの活動の予定などを紹介します。

【3】授業のヒント

---

【1】最新活動報告

---

9月は各地で部会が開催されました。その内容を報告します。

■大阪部会 (No. 40) を開催しました。

日時：2014年9月20日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

内容の概略：

【内容要旨】 出席者9名。

(1)経済教育ネットワーク野間敏克理事(同志社大学)から最近の活動報告がありました。中心的話題は東京証券取引所と共催の「先生のための夏休み経済教室」の結果報告で、今年度は、どの会場でも若い教師の参加が目立っており、ネタ作りに直結する授業実践報告、東京で初めて行われた Basic コースなどは、役だったと評価が高く、中でも、テスト問題の作り方については、新人・ベテランを問わず、中学・高校ともにニーズが高く、次年度も開くべきとの意見が紹介されました。また、中学の部で毎年実施されている意見交換会は有意義で好評にも関わらず、参加人数がそれほど多くないことから、もう少し参加を促す方法を考えてはどうかとの意見も出されました。

(2)夏の経済教室でも紹介された日本経済教育センターの地理教材(河原和之氏、加藤一誠氏らが作成)に対するアンケート結果が資料として配付され、意見交換が

行われました。教材の内容への評価は非常に高く、教室で実践してみたいとの感想が、多く寄せられていました。ただ、どの時期に、どれだけの内容を取り上げるかという、教科の中での位置づけを懸念する声もありました。

(3)山本雅康氏（奈良学園中学校高等学校）から、ふたつの実践報告がありました。

①マンションの耐震工事を題材にした公共財ゲーム（日本大学中川雅之氏作成）

を使って政府の役割を考える授業、

②司法書士を招いて実施された「契約書をつくろう」をテーマとした授業です。

①はネットワークの活動が始まった頃から、多くの教師が実践し、改善されてきた教材であり、山本氏の実践でも成果があったとのことでした。

②も、身の回りの様々なところで契約が結ばれていることを知るなど、生徒に驚きを与えながら理解を深めることができたとの報告がありました。

(4)その他、アベノミクスや消費税増税に関する意見交換を行い、最後に、秋の経済教室として、11月15日に日本大学で開かれる宮尾尊弘氏（南カリフォルニア大学など）の授業予定が紹介されました。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka40report.pdf>

#### ■東京部会（No. 69）を開催しました。

日時：2014年9月24日（水） 19時00分～21時30分

場所：日本大学経済学部

内容の概略：参加者12名。

(1)夏の経済教室の総括が、石山晴美氏（東京証券取引所）から詳細な資料とともに報告されました。参加者のアンケートからは、中学の実践報告の評価が高かったこと、歴史シリーズや時事問題の解説、教科書を読み解くシリーズには高い評価と継続の要望があること、東京高校でBasicコースを設けたことに対する評価は高いが、内容に関しては検討の余地があること、講演の評価が二分されていること、教科書の配布が有難いとの声が多かったことなどが浮かび上がっていました。運営に関しては多くの賛辞が寄せられ、この夏の教室が定着してきていることがうかがわれました。これを受けて、来年度のあり方についての意見交換が行われ、さらにブラッシュアップしたものを企画することが確認されました。

(2)篠原代表から、大阪部会の報告、ネットワークが現在取り組み中の企画、秋の経済教室の取り組みなどの報告と討論が行われました。また、3月の年次総会の日程（3月28日予定）の検討も行われました。

(3)鍋島修一氏（教育実践オフィス代表）より、大学生の修学時間と授業での教員の指示との関連のデータと内容の説明がありました。大学生は入学偏差値にかかわらず、二時間以上の授業外での学

修と授業内容の理解の相関が高いこと、また、それを行う学生の比率は変わらないこと。教員の授業内容への指示によって学修時間や取組は変化することが実証されたというものです。

この概略はネットワークのHPから参照することができます。

(4)実践報告では、塙恵理子先生（都立府中東高）から、7月に実施した月に実施した「割引現在価値」に関する授業「恋愛と時間の経済学」の実践報告（加藤先生講義）とその改案が、授業の生徒の反応とともに報告されました。割引現在価値をいかにやさしく教えるか、それを踏まえてどのような知見が生徒に生まれるかに関して討論が行われ、さらに実践の追試を行ってゆくことが確認されました。関連して、篠原代表からは、経済学を教えるのではなく社会の仕組みを教えることが大事なので、それを踏まえて授業を行う必要があるとの指摘もなされました。

(5)小巻泰之先生（日本大学）から、最近のGDPの減少に関する解説がありました。消費税増税の影響を考えると落ち込みは当然で、問題はトレンドなのでそれを見てゆく必要があり、多くのマスコミはミスリードしているとの指摘がなされました。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo069reportR.pdf>

#### ■札幌部会（No. 11）を開催しました。

日時：2014年9月27日（土） 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンク セミナールーム

内容の概略：参加者10名。

#### 【内容要旨】

(1)経済教育ネットワーク理事の野間敏克理事（同志社大学）から、東京証券取引所と共催の「先生のための夏休み経済教室」の結果が報告されました。それを受けて、東京中学の部に参加した兼間先生（札幌市立定山溪中）から、二日間の内容が紹介され、参加した感想などが報告された。続いて野間理事から、経済教育ネットワークの最近の動向についての報告がありました。

(2)次に川瀬先生（札幌清田高）より、以下の四点が報告、提案されました。

- ①経済教育の本質の確認と参考文献の紹介
- ②地元にも根ざした授業実践の例「名寄を知る」の紹介
- ③北海道をネタにした授業実践例の提案
- ④北海道を中心とした日本全国での活用

(3)大阪から参加された李先生（大阪市立長吉中）から、ふたつの授業実践が報告されました。ひとつは、政府の仕事と財政に関するもので、政府の仕事の確認、それにどれほど費用がかかるかのクイズ、それをまかなうための税制の設計、公正と効率性についての考察、地元を念頭においた税制を議論・提案、という手順で進められる。

もうひとつは、需要と供給の教え方に関するもので、価格の決まり方について考察したあと、需要曲線、供給曲線を生徒への質問から描き、さらに需要曲線・供給曲線を用いて、税制効果の分析、余剰分析、価格変動の大小との関係、などの応用問題に進む授業です。

いずれも、写真や具体的金額などを使いながら身近な問題であることを感じさせ、それでいて教科書で必要とされる概念的な理解を深め、さらにグループ学習による意見交換から発表・言語活動に進むように設計されているすぐれた教材と実践でした。

ふだん大阪部会に参加している李先生と札幌部会の参加者との間で、質疑や意見交換が、部会後の懇親会にまで持ち越されて、活発に行われました。

内容の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo011report.pdf>

---

## 【 2 】 イベントカレンダー

---

これからのイベントと部会を紹介します。

### ■ 先生のための『秋の経済教室』

講師：宮尾尊弘先生

日時：2014年11月15日（土）16時00分～17時30分

場所：日本大学経済学部

共催：日本取引所グループ（東京証券取引所）

参加方法は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2014%20keizaikyoushitsu/2014RR.Fall%20Prof.Miyao.pdf>

なお、講義の基になる宮尾先生のシンプル経済教室はYouTubeで見ることができます。

### ■ 本日、京都部会（No. 26）を開催します

日時：2014年10月3日（金）19時00分～21時00分

場所：同志社大学 良心館4階第二共同研究室

参加方法などは以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/kyoto026Rflyer.pdf>

### ■ 東京部会（No. 70）を開催します

日時：2014年11月15日（土）15時00分～16時00分

（秋の経済教室の前の時間帯です）

場所：日本大学経済学部

参加方法などは以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo070flyerR.pdf>

■大阪部会 (No. 41) を開催します

日時：2014年11月29日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト (予定)

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17階

参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka41flyerR.pdf>

---

【 3 】 授業のヒント

---

■経済実験をやってみよう

実験経済学が注目されていますが、今回紹介するのは非常に単純な実験です。教科書には中学、高校とも需要曲線と供給曲線が載っています。それが本当に成り立つのか、教室で試してみるというものです。

やり方は、ペットボトル一本を用意して、これをいくらだったら買うか、いくらだったら売るかを生徒に紙に書かせるだけです。情報として、売り手にはコストとして60円がかかるという前提を話しておきます。また生徒には、まわりと相談しないで自分の見解を書くようにと指示をしておきます。40人クラスだと、半々に分けると結果が良く見えるでしょう。

中学3年生の教室で実際にやってみました。

買い手は、68円1人、以下70円1、80円5、85円1、90円2、99円1、100円5、160円1、170円1でした。

売り手は、75円1人、以下78円1、80円1、90円1、99円1、100円1、108円1、110円1、115円1、120円3、130円4、140円1、162円1、180円1となりました。

これをもとに需要曲線(階段状になります)を描き、供給曲線(同じく階段状です)を描くと、右下がり、右上がりの曲線が描け、二つを重ねると均衡価格が出てきます。この場合は、均衡価格100円で取引数量は7個でした。なお、グラフは時間があれば生徒に実際に書かせるといいのですが、それだけでかなりの時間を食ってしまうので、実験だけをして、グラフは教員が書いて、次の時間に示しました。高等学校で「情報」などを学習済みでエクセルなどが使えれば、それでグラフを書かせてみせるのもお勧めです。

教科書で模式的に表現されているものが、教室でも実証されたので生徒は納得です。同じような実験を3クラスにも行い、ほぼ同じ結果が得られました。ただし、上例のように、ドンぴしゃりで数字は一致せず、100円前後という結果ですが、

実験で確認されるという意味は大きいと思います。

ここから、大阪の李先生が実践されているように、市場のメカニズムの説明をして、それが十分に機能しないときはどうするか、また、ペットボトルでいえば、場所によってどうしてこんなに違うのか、その秘密は何かなど様々な発展が可能になります。

市場実験はもう少し複雑なものもありますが、これは簡単な実験ですから一度試みてください。(新井)

---

#### 【 4 】編集後記 (みみずのたはこと)

---

経済教育学会の大会が京都であり、韓国 Gyeonsang 大学の金先生に再会しました。金先生から、韓国の高校生向けの経済の教科書の改訂版を頂戴しました。ハングルは全くダメなので、写真やグラフなどから内容を推定するだけですが、日本の教科書や経済教育はこれでは負けてしまうなどと思うくらい、内容も装丁も立派なものでした。日本の教科書はかなり自由化されたとはいえ、定価が決められているのでどうしても制約されています。韓国の本格的な経済の教科書を見て、彼我の差を考えさせられています。(新井)

=====  
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇